

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400230		
法人名	有限会社 祐康		
事業所名	グループホーム鮎乃里		
所在地	秋田県大館市榎崎字大道下27-1		
自己評価作成日	令和2年10月21日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを尊重し、ご自分のペースにて自由に過ごしていただきながら、生活のパートナーとして支えるよう支援している。
施設行事を通して、季節感を感じていただきながら気分転換もはかれるよう支援している。
負担のない範囲でできるだけ活動的に過ごせるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年11月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地区の運動会や、公民館で開催される地区発表会に利用者と共に参加し、保育園児や地区住民と交流している。ホーム夏祭りでは民生委員を介しての地区ボランティアがやきそば、焼き鳥、たこやき等の出店を担ってくれる。敬老会では保育園児の遊戯が披露される。特別支援学校の職場見学や実習生を積極的に受け入れている。毎月「外食レク」と称し、碓ヶ関の道の駅、北欧の社、回転寿司等々へ出かけては外食を楽しむことが出来る。コロナ禍により外出が制限されてからは、出前に切り換えることで継続している。利用者に人気のホームメニューは、きりたんぼ、だまこ、ちらし寿司とのこと。ユニット毎に作ったり、両ユニット共有で作ったり、前もつてのメニューはなく、出来るだけ利用者のリクエストに答えながら、食事を楽しめるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が目につく場所に理念を掲示し、常に理念を意識したケアに取り組んでいる。	重要事項説明書の冒頭に企業理念を掲げている。ホームパンフレットにホーム名である「鮎乃里」にちなみ、「あかるく ゆったり のんびり ささえあう ともに」、次に文章で、「その人らしさを大切に、安心して暮らせるよう生活のパートナーとして支えます。」とのホームの理念が大きく紹介されている。理念は、設立当初、職員全員で話し合い作成しており、長い文章の理念は覚えにくいので、出来るだけ簡潔で覚えやすいよう配慮したとのこと。毎朝の出勤時に確認できるよう、理念はタイムカードレコーダーそばに掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民が暮らす民家は近隣にはなく、地域との交流が難しい環境ではあるが、同地区で毎月発行している公民館だよりを定期的にいただいたりし、地域とのつながりを意識している。	地区の運動会や、公民館で開催される地区発表会に利用者と共に参加し、保育園児や地区住民と交流している。ホーム夏祭りでは民生委員を介しての地区ボランティアがやきそば、焼き鳥、たこやき等の出店を担ってくれる。敬老会では保育園児の遊戯が披露される。特別支援学校の職場見学や実習生を積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議やその他交流の機会があれば、認知症の人の理解や支援の方法を伝えるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見交換にて得られた情報を元にサービスの向上が図れるよう努めている。	各ユニットの家族代表、地区民生委員、市介護保険係、地域包括支援センター、管理者、計画作成担当者で構成され、ホームの家族ルームを会場に開催している。コロナ禍による面会制限等についての家族代表からの質問が数多く議事録で確認できた。	運営推進会議で、避難訓練への地区住民の協力について、議題として取り上げるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議のメンバーとなっており、事業所の実情を理解されていて、常に協力を得られるような関係づくりができています。	市担当者と地域包括支援センターが運営推進会議に毎回参加してくれており、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、互いに連携できる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の廃止に向け、毎日当日勤務の職員に確認し、毎月開催される身拘束廃止委員会でも状況を確認しており、今まで対象者は皆無。全職員が委員に該当し、施設長、管理者、計画作成担当者に加え、当日勤務の職員が参加している。委員会議事内容は全職員に周知されている。身体拘束防止に向けた研修は、年間スケジュールに組み込まれている。	身体拘束等適正化のための指針(マニュアル)に、説明(同意)書及び経過観察・再検討記録の様式を添付するよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、計画作成担当者、介護員それぞれの言動に注意し、不適切な対応等あればお互い注意し合い虐待につながらないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の業務の中で権利擁護に関する必要な情報を収集し必要性があれば関係者と連携するようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始時には、利用者やそのご家族が理解しやすいように工夫して説明し、それ以降にも不明な点があれば随時対応させていただき、納得してサービス利用できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者やご家族からの要望等を聞く姿勢で日頃から関わりを持っている。	ユニット毎に毎月ホームだよりを作成し、全家族に郵送している。9月の敬老会での食事風景や、10月の運動会でのパン喰い競争等々、全利用者の様子が数多くの写真構成で元気な姿が一目で確認できるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員ミーティングの場や、それ以外の業務中にも職員からの意見を聞き、皆が納得できるような運営が続けられるような姿勢をとっている。	毎月のユニット毎の職員ミーティングや朝の申し送り、更に申し送り簿で職員の意見や提案を把握している。職員ミーティングには必要に応じ施設長も参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は適宜管理者や職員とコミュニケーションを図り、各自が働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種、職員のスキルに合った研修への参加の機会を確保するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	業務の中でサービスの向上につながるような意見交換を実施している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談等の場でご本人の要望をゆっくり、丁寧に伺い、安心して生活していけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談等の場でご家族の要望や不安な事等を傾聴しながら、より良い関係が築けるよう、できる範囲でご要望に応えられるようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを大切に、安心して暮らせるよう、生活のパートナーとして支える事が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会ができる機会を作り、ご家族にもできるだけ関わりを持ってもらいながら、ご家族の絆を大切に、共に支えていく関係を作っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くの郵便局に職員と一緒に利用料金をおろしに行ったり、入居前からのかかりつけ医への通院介助等、できる限り以前からのなじみの関係が途切れないよう支援している。	以前より慣れ親しんだ馴染みの郵便局しか利用しないという利用者のために、毎月その郵便局へ送迎しているとのこと。ご家族が親戚等の知人を面会に連れてくる例も数多い。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での交流や良い関係性が築けるように適宜職員が介入し支え合って生活できるよう努めている。		
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後もこれまでの関係性を大切にしている。必要に応じてご本人、ご家族の相談や支援をするよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中でご本人の思いに寄りそい、その人にとって何が一番適切な事かを考えながら職員間で話し合っている。	かつて自炊していた方に、料理の下ごしらえに参加してもらったり、利用者それぞれの得手不得手に合わせ、茶碗拭きや洗濯物たたみ、テーブル拭き等々を手伝ってもらったりしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや生活環境に近い生活が出来るよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化等に注意して現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のご要望に沿った支援が出来るように介護計画を作成している。 職員や関係機関の意見を聞きながら現状に即した介護計画であるよう努めている。	職員ミーティングの中で、利用者個々の状況やサービス内容の確認をし、計画に反映させている。特に日常業務の中での職員同士の情報交換を重要視している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や、気づき等があれば詳しく記録するようにして、職員間で情報共有しながら、ケアの実践や介護計画に反映できるようにしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活を支え、活用できる地域資源があれば、確認し、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診介助実施し、その他必要な受診についても適宜ご家族に確認しながら対応している。受診結果のご家族への報告は、毎月の受診報告書以外にも必要に応じて個別に報告している。 かかりつけ薬局については、ご家族同意のもと1か所に決め連携がとれるようにしている。	入居前のかかりつけ医を継続して利用することを方針としている。インフルエンザ予防接種等は協力医療機関に依頼。ホームのかかりつけ薬局へはいつでも気楽に電話連絡できる関係にある。受診(通院)専門の担当者を配置している。手書きの受診記録簿を導入し、スタッフ同士の周知はもちろんのこと、個々に印刷したものを各家族に送付している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時看護師の資格を持った職員に相談し、適切な対応や受診ができるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室等と適宜連絡を取り合い情報交換し、入院中や退院後の生活の相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で対応できることを説明し必要であれば他施設への申し込みの支援を行っている。	看取りは行わない方針にある。重要事項説明書の退所等の項目に、入院治療を必要とするなど、事業所が必要なサービスを提供することが困難であると認めた場合は、医療機関又は介護保健施設等の紹介について記載されており、説明を行い同意を得ている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、救急時の対応についてマニュアルを作成し、いつでも回覧できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている他、隣接するショートステイと合同で水害想定訓練として地区の公民館へ移動訓練している。	東北地方第5の大河で、秋田県内では流域面積が雄物川に次ぐ米代川が近くを流れており、氾濫を想定し、水害想定訓練を実施している。訓練では、避難場所である公民館まで車で実際に移動している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のペースに合わせ、その人の人格を尊重した対応を全ての職員が心掛けている。	トイレ誘導の際は、周囲に気付かれないよう、ホームなりに様々な工夫をしている。1名であるが、本人が「○○」と自分を呼んで欲しいとの強い要望があり、要望に応えている。「△△はどうですか。」等、本人に決めてもらうような声掛けを心掛けている。入室する際はノックして「失礼します。」と添えるようにしている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	指示的な声かけはなるべくしないようにして、利用者ご本人が意思決定できるような声かけを心掛けている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りこちらからの都合は優先せず、ご本人の意思を最優先している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等を職員と一緒に選んだりしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特別決まった食事のメニューはなく、何が食べたいか利用者様に聞いたり、皆が好むメニューを考えながら準備している。茶碗洗いや食器拭きを毎日のように行っている。	毎月「外食レク」と称し、碓ヶ関の道の駅、北欧の杜、回転寿司等々へ出かけては外食を楽しむことができる。コロナ禍により外出が制限されてからは、寿司屋や弁当店、食堂からの出前に切り換えることで継続している。利用者に人気のホームメニューは、きりたんぽ、だまこ、ちらし寿司とのこと。ユニット毎に作ったり、両ユニット共有で作ったり、前もつてのメニューはなく、出来るだけ利用者のリクエストに答えながら、食事を楽しめるよう取り組んでいる。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量、食事状況を確認しながら、その人に合った食事形態の工夫をしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの支援を行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら排泄状況を確認し、利用者の状態に合った支援を心掛けている。	夜間のみポータブルを利用している方が2名、日中はトイレで排泄することをホームの支援の基本として対応している。誘導の際に「もう行ってきたよ。」という利用者には、「ご飯の前だから」と誘い、本人の自尊心を傷つけない声掛けを工夫している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションの中で身体を動かす機会を作ったり、水分摂取や食事状況を確認しながら便秘の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定は決めているが、その日の体調や利用者様の希望にも配慮して柔軟に対応している。	大人3人が入れる程の大きな浴槽を一人で利用しているのでゆったりと湯につかることが出来る。週に2回は入浴出来る。スタッフが比較的多い日は午前中も入浴が可能。入りたがらない利用者には、「薬を塗るから」と声掛けしたり、褒めることで誘ったりと、工夫している。拒否が強い場合は無理強いせず、翌日対応としている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその日の状態にも配慮しながら安心して休息できるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局と適宜連携をとり、いつでも相談できる体制ができている。一覧表やおくすりの説明書はいつでも閲覧できるようにして、副作用等理解に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、茶碗拭き等なるべく役割を持って生活していただけるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出レクリエーションやドライブ等中止となっているが、受診で外出した時などは、馴染みの場所や自宅近くを通ったりして気分転換が図れるよう支援している。	天気のいい日に、外に長椅子を並べて日光浴を楽しんだり、ホーム周囲の広大な田圃を眺めながら散歩している。コロナ禍により外出が制限されてからは、意識してドライブの経路を延長する工夫が見られる。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる利用者様は少ないが、できるだけ自分でお金が見えるような支援をしたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望を伺い職員が支援して電話をし、利用者につなぐようにしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いホールを自由に使い、季節にあ合った飾りつけや過ごしやすい空間であるよう工夫している。	広いホールの壁には、トイレが一目で分かるような大きなトイレ表示がある。ホールでは各種催し物が十分に出来、まるで小体育館、羨ましい限りである。ホールの広さに合わせての特大TVは利用者が食事しながらでも十分に見ることが出来る。白とこげ茶をベースにした彩色は、とても落ち着く空間を演出している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で過ごせる場所の確保はできている。 独りになりたい場合も居室で過ごせるようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごしていた環境になるべく近づけるように、ご家族やご本人と相談しながら居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッドとタンス、クローゼットは備え付けとなっている。家具やテレビ等は慣れ親しんだ物を持ち込んでいる。居室は床暖房を基本とし、ホーム全体の冷暖房の効果も活用している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室等わかりやすいよう目印をつけたりして工夫している。		